

大豆近況 VOL.140

団体会員
一般会員 各位
賛助会員
協賛企業

関係部署にご回覧ください。

令和2年7月7日
一般財団法人 全国豆腐連合会
代表理事 齊藤 靖弘
相談役 郷 和平

「大豆近況」をお届け致します。是非、ご活用下さい。

○北米産大豆

米国農務省が6月11日に発表した、2020/2021年度の米国大豆需給予想によりますと、作付面積・単収共に前回より据え置かれ、生産高は1億1,226万トンでした。輸出の減少を受けて期初在庫が上方修正されたことで総供給量は前回比0.1%上方修正されましたが、搾油量が増加したことで総需要量は0.3%上方修正されたため、期末在庫は1億760万トン(在庫率9.1%)に下方修正となりました。また、世界の大豆生産予想は、前回比微増の3億6,285万トンとなっております。

なお、同省が6月22日に発表した、6月21日現在の米国主要生産州での発芽率は89%(前年66%、平年85%)、開花率は5%(前年1%、平年5%)といずれも前年を大きく上回って推移しております。なお、米国大豆作柄概況では、主要生産州の平均で優良12%(前年7%)、良好58%(前年47%)と優良と良好を合わせて70%となっており、作柄につきましても前年を大幅に上回って推移しております。前年産は作付け時期の天候不良を受けて農作業が大幅に遅れたことにより、大豆の生育も大きく遅延しましたが、2020年産については概ね順調に推移しており、今後も順調な生育が期待されます。

6月のシカゴ相場は、期近7月限が\$8.41/ブッシェル付近から始まりました。序盤はブラジルのリアル高によるブラジル産大豆の割安感が薄れたことに加え、中国による米国産大豆の成約を受けて、米中合意の米国産大豆大量購入の履行に対する期待から\$8.70/ブッシェルまで上昇しました。中盤は米国産大豆の良好な作柄を背景に利益確定の売りが入り、相場は上げ渋る展開となりました。その後も中国による大量購入期待と良好な米国産大豆の作柄が拮抗し、6月31日現在、期近7月限が\$8.66/ブッシェル付近で推移しております。

6月の円相場は、1ドル=107.70円付近から始まりました。序盤は新型コロナウイルスにより停滞していた経済活動が世界各地で再開するとの期待から、低リスク通貨の円が大きく売られ

る展開となり、一時 109.85 円付近まで円安が進行しました。その後、米国 FRB が国債利回りに誘導目標を設ける議論をするとの思惑から米国長期金利の低下が懸念され、円が買い戻される展開となりました。10 日に FRB がゼロ金利政策を維持する方針を示したことで、米国の大規模な金融緩和が長期化され低金利が長引くとの見方が再認識され、一段と円高に振れることとなり、一時 106 円台半ばまで円が買われました。その後は米国長期金利の下落一服や世界の景気回復期待という円売り材料と新型コロナウイルスの第2波拡大懸念や世界経済の先行き不透明感といった円買い材料が入り交じり、一進一退の展開となりました。6 月 31 日現在、月初とほぼ同水準の 1 ドル=107.70 円付近で推移しております。

○国産大豆

令和元年産国産大豆の第 7 回入札取引が 6 月 10 日に実施され、4,490 トンの上場に対して 3,828 トン(落札率 85.26%)が落札されました。平均落札価格は、普通大豆:¥10,372/60kg(前月比△¥303)、特定加工用:¥9,763/60kg(前月比△¥223)で全体の平均価格は¥10,274/60kg(前月比△¥264)との結果となりました。落札率、落札価格ともに若干ですが前月を下回っており、一部の銘柄では中粒の価格が大粒を上回る状況が見られますが、全体的には大きな波乱の無い落札結果であったと考えられます。

今回の入札は 7 月 8 日に予定されており、これが令和元年産の最終入札となります。上場数量は約 2,800 トンとこれまでと比較するとかなり少なく、令和元年産大豆確保の最後のチャンスということもあり、大きな混乱無く終了することが望まれます。

以上